

THE 市町支援通信

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

子ども心身発達医療センターは、途切れのない支援システムの構築を推進しています。

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援をめざし、子ども心身発達医療センターは多くの市町と共働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ①発達総合支援室（保健・福祉・教育の一元化室）・機能の設置
- ②「CLM（チェック・リスト・in 三重）と個別の指導計画」による保育所・幼稚園での早期発見・支援
- * 「CLMと個別の指導計画」は、子どもの育ちを見極め、適切な支援を行うためのツールです。
- ③みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成支援
- ④「CLMと個別の指導計画」専任コース研修（CLMコーチ）の育成支援

「CLMと個別の指導計画」 実践報告会 特集

令和2年11月15日、500人を超える方々のご参加を得て、Webにて「令和2年度『CLMと個別の指導計画』実践報告会」を行いました。

三重県 鈴木英敬知事の挨拶です。（要旨）

今般のコロナ禍で困難を伴うにも関わらず、日頃からの保育現場において子どもたちをサポートし、尽力されている皆様方に心から敬意を表すとともに、厚く御礼申し上げます。

さて、三重県では、2017年6月に「子ども心身発達医療センター」を開設し、3年が経過しました。センターでは、良質で高度な医療・福祉サービスの提供はもとより、発達障がい支援の総合拠点として、市町をはじめとする地域への支援強化に取り組んでいるところです。今年度は、三重大学の医学部小児科や三重県小児科医会の協力を得て、小児科の先生方などを対象とした講座を3回にわたり、オンラインで開催しました。これらの取組を足掛かりとして、小児科の先生や市町のアドバイザー、CLMコーチ、子ども心身発達医療センター、療育機関、ペアレントメンターなどとのネットワークにより、子どもとその家族を支援できるよう取組を進めています。

「CLMと個別の指導計画」とは、発達に課題のある「気になる子」が、日々の生活の場である保育所・幼稚園などで困難さを感じることなく、過ごすことができるよう、担任の先生のクラス運営のためのシナリオとして開発した三重県オリジナルの支援ツールです。保育士や幼稚園教諭の人材育成やスキルアップを導く、このツールは三重県内だけでなく、広く県外でも活用されており、乳幼児期の具体的な支援手法としても、小児科の先生からも期待されています。

三重県では、少子化対策の計画、「スマイルプラン」において「CLMと個別の指導計画」の導入割合を数値目標に定め、市町や関係機関と連携しながら、普及と活用を進めてきました。令和元年度末の導入率は65.1%で、さらなる普及・活用に取り組んでいるところです。

本日の「実践報告会」は、参加者の皆さんが「気づき」を得て、お互いが刺激を受けあい、切磋琢磨する重要な機会となることを期待しています。また、本日の実践報告を参考とし、それぞれの現場で、実践に生かしていただくとともに、皆さんの取組がより一層向上することを願っています。

最後に、支援を必要とするすべての子どもたちのために日々努力されている皆さんのますますのご活躍を祈念いたします。

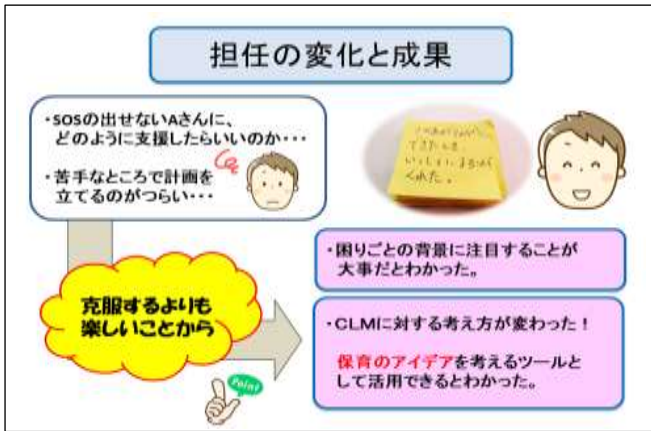


（鈴木英敬知事）

「CLMと個別の指導計画」 実践報告会 事例報告

南アルプス市

“いいこと探し”で育ち合い



● SOSを発信しにくい5歳児Aさん。友だちの”いいこと探し”をクラスみんなと取り組むことで、思いや感情を表現できるようになりました。「克服するより楽しいことから」「治すのではなく育てるプログラム」を通して、子どもたちが互いに認め合うクラスへと成長しました。

鳥羽市

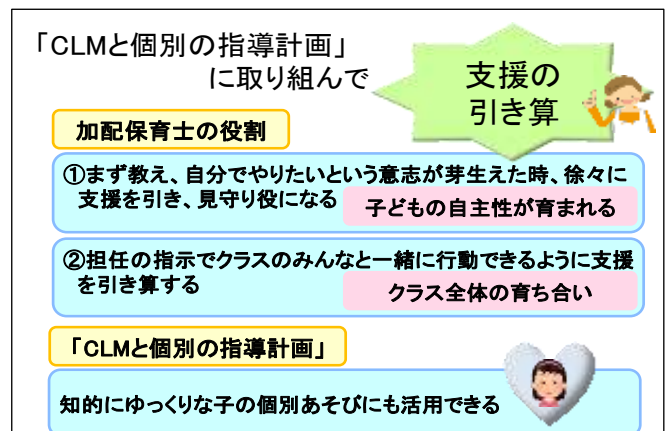
“ほめのシャワー”でみんなハッピー



● 指示が通らない4歳児Aさん。CLMを通して、担任は規律のある保育をできるようになり、子どもにもわかりやすい保育になりました。ほめて、ほめられる場面がたくさんあるクラスで、みんなの自己肯定感がUP！Aさんは自ら進んで行動したり、粘り強く活動に取り組むことができるようになりました。

いなべ市

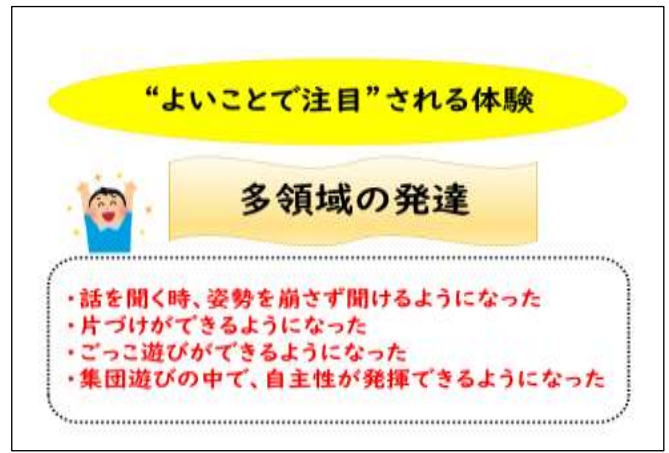
知的にゆっくりな子につく加配保育士の役割とは



● おもちゃでは遊ばず、テラスと部屋を行ったりきたりしていた発達ゆっくりな4歳児Aさん。加配の先生がAさんにすべきことを教え、できるようになったら支援を引き、自主性を育みました。後半はクラスのみなどととも育ち合い、成長していきました！

伊勢市

自主性を育み、優しさが出せる保育



● 気をひく行動でトラブルになる5歳児Aさん。よいことで注目される体験を積み重ね、友だちと遊べるようになりました。CLMによって、Aさんは多領域において発達が促され、自信を持ち自主性を発揮するようになりました。そして、クラスのみならず、Aさんへの“指摘”からAさんを“応援”するへ…子どもが本来持つ優しさを出せるようになりました。

始まりの合図で 降園の支度がバッチリ！！



Aくん 年長男児
・クラスのみんなから遅れて行動することが多い



担任の願い
みんなと一緒に行動できるようになって欲しい



クラスの様子 年長18名
・元気いっぱい活気のあるクラス

名前: Aくん																																			
<p>チェック項目 (1) 登園、降園の支度や給食の準備など一連の動作が 途切れやすい</p> <p>エピソード 降園の支度の時、取り掛からず、遊び続けたりフラフラしたりする</p>	<p>要因</p> <p>①手順がわからない ②始まりがわからない</p>																																		
<p>目標 降園の支度(①タオル②コップ③カバン)の時、担任と一緒に手順通りに支度ができる。</p>																																			
期間	具体的な指導方法	結果・評価																																	
7/1 ~ 7/14 2W 10回	<p><クラス環境の整えとクラス全体の支援></p> <p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> 手順表を掲示する。 <p><降園の支度の前></p> <ul style="list-style-type: none"> イスに座らせ、手順を伝える。 ロッカーを上段(1グループ)と下段(2グループ)にわける。 始まりの合図(ベル)を鳴らしたら、1番グループから順に降園の支度を始めることを伝える。 <p><降園の支度の時></p> <ul style="list-style-type: none"> ベルを鳴らし、グループごとに支度をさせる。 支度ができたらOKサインでクラス全体をほめる。 <p><手順表></p> <ol style="list-style-type: none"> ①タオル ②コップ ③カバン <p><個別の支援></p> <ul style="list-style-type: none"> 個別にも手順を伝え、担任と一緒に支度することを伝える。 降園の支度ができる子がかっこいいと伝える。 「支度をしようね」と声をかけ、手順通りに支度をさせる。 支度ができたら個別にハイタッチでほめる。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>○×</th> <th>特記事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>評価日: 7月21日(火)~</p>	月日	○×	特記事項																														
月日	○×	特記事項																																	



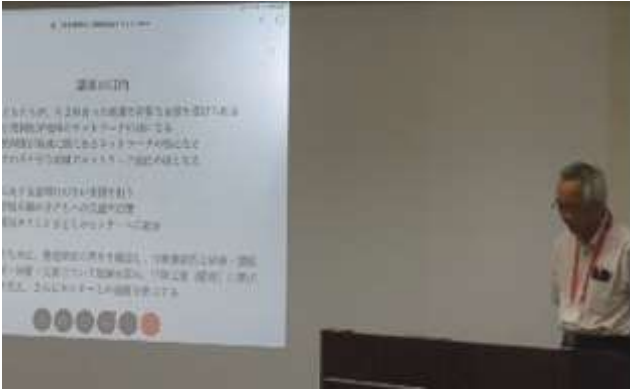
Aくんは、降園の支度の始まりの合図を決めたことで、みんなと一緒に動けるようになりました。

イスに座らせ手順を伝えたことで、子どもたちが今から何をすることがわかりやすくなりました。



発達障がい児支援システムネットワーク事業を 開始しました

三重県に生まれ育つ子どもたちが身近な地域において支援が受けられることを目的に、発達障がい連続講座を3回オンラインにて開催しました。当センター児童精神科医師より、発達障害総論、発達障がいの症状と具体的対応、薬物療法についてお話ししました。のべ170名の小児科の先生方にご参加いただきありがとうございました。今年度内に更にADHDに関する発達障がい連続講座を2回開催する予定です。



早速、地域の小児科の先生からご相談を受け、当センター医局・地域支援課と地域の小児科医師、市町の発達総合支援室・機能と連携したケースの対応を開始しました。当該市町の担当者とともに、「CLMと個別の指導計画」を作成しました。計画は、「朝の支度を加配保育士とできるようになる（生活習慣）」「10分間、物を使って遊べるようになる（あそび）」を目標に支援を組み立てました。加配の先生は、「Aくんの好きな数字を活用して手順を示すとよいのでは?」「物を並べるあそびから物を使ってやりとりするあそびへと発展させたい」など、日々の保育の中で子どもの成長を促すアイデアや願いがたくさん出され、充実した検討会になりました。

始まったばかりの事業ですが、地域の小児科医の先生からご依頼いただき、当センター医局担当医師と連携し、具体的にケースの対応を行います。各市町のアドバイザー、CLMコーチ、支援窓口担当者の皆様のご協力をお願いいたします。

●センターからのお知らせ

令和3年4月からの初診受付は、令和3年1月7日（木）9時30分から専用ダイヤルにて受け付けます。予約お申し込みの電話が集中すると予想されます。

通話中の場合は、恐れ入りますが再度おかけ直してください。

予約専用ダイヤル：059-253-2020

令和2年（2020年）12月17日

＜発行＞三重県立子ども心身発達医療センター 発達総合支援部 地域支援課

〒514-0125 三重県津市大里窪田町 340 番 5

電話番号 059-253-2000（代） F A X 059-253-2029

MAIL : childc@pref.mie.lg.jp URL : <http://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/>